


政務調査研究視察 報告書

平成19年2月28日提出

視 察 日	平成19年 2 月 22 日 (木)	
視 察 先	鹿児島市	
視 察 内 容	「維新ふるさと館」について	
視 察 者	近藤隆志 稲垣良美 蜂須賀喜久好 山崎泰信 山崎泰伸 園山康男 柴田 泉 計 7名	
鹿 児 島 市	<p>< 維新ふるさと館について ></p> <p>1 鹿児島市の概要 人 口：60万人 面 積：546.95 k㎡ 財政力指数 0.63</p> <p>2 視察概要 視察場所鹿児島市維新ふるさと館 敷地面積 2, 312㎡ 建物構造 鉄筋コンクリート造地下一階地上一階建 延床面積 2, 513㎡ 建設工事費 約30億円（市費と市債で全額賄う） 工事着工 平成4年10月 開 館 平成6年4月 入場者数 平成6年 15万人 平成17年12万人 （現在来館者の8割が県外の方）</p> <p>3 建築趣旨 鹿児島市は、金江湾や桜島に代表される雄大な自然と島津7百年や幕末明治維新を中心とした歴史・文化遺産など豊富な観光資源を有している。 本市観光の活性化を図るためには、これらの恵まれた資源を十分活用した観光の施策が必要である。 鹿児島市には記念碑や誕生地碑や銅像その他の史跡は数多くあるものの、歴史的な資源を有機的に結び付け市全体としての歴史観光を押し進める核となる施設が造りたいと言うのが趣旨であった。 施設を作るにあたり数多くの偉人を輩出したこの加治町に建てることにも大きな意義がある。</p>	
	<p>〔感想・岡崎市への反映〕</p> <p>福田賢治解説者に館内を2時間かけて説明を頂いた、当時薩摩では郷中教育（ごじゅう教育）が行われていた、この郷中教育とは稚児（小稚児（こちご）6歳から10歳・長稚児（おせちご）11歳から16歳）と二才（にせ）15歳位（元服）から24歳位（二才頭）と長老（おせんし）（25歳以上という呼び方をしていた、小稚児・長稚児は朝二才の家に行き四書五経などの講義を受けその後は長稚児が小稚児に遊びや運動をして体を鍛えた、二才はその後役所で仕事か造士館で勉強して夕方からは武芸の稽古をする毎日であった、おのずと先輩後輩という立場の確立や連帯感が生まれたのではないだろうかと言うものである、現代の教育方針はここから学ぶべき点が多々あると思う、そして武芸から薩摩人の気質の感じ取ることが出来た、示現流という刀を抜いたら最後生きるか死ぬかまで戦う剣法であるがゆえにめったなことでは刀を抜かない（辛抱強いが怒ったら最後） 教えからであるそうだ。</p> <p>人に教えるためには自分が勉強して理解しないと教えることは出来ない、だからゆくゆくは自分も教える立場になる事が分かっていたらおのずと勉強せざるを得ない、当たり前なことであるが大事なことである。</p>	